

月命日 行方不明者の搜索続く

1月11日 12時29分



東日本大震災の発生から2年10か月となる11日、被災地では今も行方が分からない人の搜索が行われています。

宮城ではボランティアも参加

宮城県内では、震災で今も1287人の行方が分かっていません。

一斉搜索は毎月11日の月命日に合わせて被災地の各地で行われています。

このうち、236人の行方が分かっていない宮城県気仙沼市の海岸の搜索には地元の警察官と共に、連休を利用して東京や山梨県などから訪れたおよそ70人のボランティアも参加しました。

はじめに海に向かって黙とうしたあと、海岸の石をかき分けたり砂を掘り起こしたりしながら、手がかりがないか、さがしていました。

東京から来た20代の女性は「少しでも被災地の役に立ちたいという気持ちで参加しました。手がかりを見逃さないよう丁寧にさがしたい」と話していました。

気仙沼警察署の奥田祐次警備課長は「全国からのボランティアの人たちに参加してもらい心強く思っています。一日も早く、ご家族のもとに帰すことができるよう今後も搜索に当たっていききたい」と話していました。